

第143期 中間報告書

平成22年4月1日から平成22年9月30日まで



豊かな社会へのパートナー 神栄グループ

神栄株式会社

証券コード：3004



基本方針

事業構造を変革する。
収益を確保する。
人材を革新する。

行動指針

日々、目標にこだわる。
課題解決のスピードをあげる。
事業マインドを高く持つ。
基本マナー・品質を磨く。

当社の経営方針

1887年(明治20年)の創業以来、時流を捉え、環境変化に適応し、「新しい価値の創造につとめ、豊かな社会づくりに貢献します」を経営理念に、お客さまや市場の高い評価と信頼を勝ち得て進化してまいりました。

現在に至るまで継承されてきた経営理念を具体化するため、あらゆる創造力と実行力の結集・積み重ねの上に形成された独自の企業文化は、企業価値を高める原動力となっています。そして、当社は現在、蓄積された競争力や信用力、技術やノウハウなどの経営資源を基軸に、繊維・食品・物資・電子を中心に事業分野の裾野を拡げ、「神栄グループ」として、次世代に向けてさらなる進化を遂げるべく、成長と拡大に向けた取り組みを進めております。

CONTENTS

- P. 2 ...株主の皆さまへ
- P. 3 ...事業の概況
- P. 5 ...事業分野別の概況
- P. 7 ...第2四半期連結財務諸表
- P.10 ...セグメント情報
- P.11 ...第2四半期個別財務諸表
- P.13 ...トピックス
- P.16 ...株式の状況
- P.17 ...会社概要・役員



代表取締役社長

森崎 歳章

豊かな社会へのパートナー 神栄グループ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお喜び申しあげます。

平素は格別のご支援を賜り、厚くお礼申しあげます。

さて、第143期中間期（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）の事業の概況につきまして、報告申しあげます。

今後とも格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申しあげます。

平成22年11月

事業の概況

当中間期期間中の世界経済は、中国、インドなどのアジア諸国が内需拡大などにより回復し世界経済を牽引する一方、先進国も景気対策効果や新興国への輸出、投資の増加などにより、緩やかな回復傾向にありました。しかし、欧州の信用不安から先進各国で株価が低迷し、経済減速の兆候が広がって来ました。

米国では、輸出が増加傾向にあり、個人消費も回復傾向にあったものの、依然として失業率が高水準にあり、また財政赤字が拡大するという状況にありました。欧州では、輸出主導により景気の緩やかな回復基調が続きましたが、信用不安により株価は下落傾向にあり、依然として失業率は高く、個人消費は低迷しました。中国においては、固定資産投資や消費が高水準にあり、輸出回復により経済の拡大が続いていましたが、インフレに加え、人民元相場の弾力化の影響が懸念されるようになりました。

日本経済においては、昨年来、緩やかな回復を続けており、企業収益は輸出の増加やコスト削減により回復基調が鮮明となり、設備投資も若干持ち直してきましたが、海外経済の減速や円高の進展による輸出の弱含みを主因として回復ペースは鈍化する傾向となりました。雇用情勢・所得環境が厳しい中、財政政策効果によって持ち直して来ていた個人消費は、猛暑による影響の明暗

が分かれる中、政策効果が一巡しつつあることから、弱含みとなり、景気の回復が持続出来るかどうかが課題となりました。

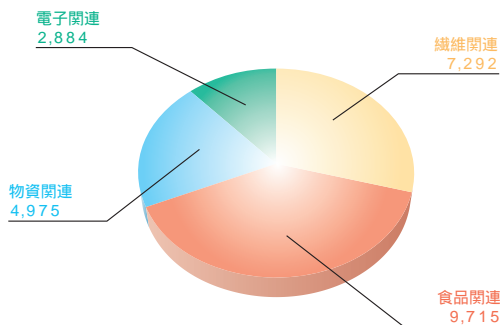
当社グループにおきましては、平成23年3月期を「事業基盤の基礎固め」の年度と位置づけ、各事業分野における諸課題に積極的に取り組むとともに、新規事業として、本年2月に参入した農業関連事業の本格的展開を開始いたしました。

当期間のグループ全体の売上高は、前年同期と比べて、小売企業を前年度中にグループ化した繊維関連、冷凍野菜の取扱いが増加した食品関連、輸出が伸張した物資関連、業界回復を受けた電子関連と、全ての事業分野において増収となった結果、前年同期比21.1%増の24,867百万円となりました。

利益面でも、前年同期と比べて、天候不順の悪影響を受けた繊維関連以外のセグメントにおいて増益となり、営業利益は375百万円(前年同期は151百万円の損失)、経常利益は241百万円(前年同期は198百万円の損失)となりました。しかし、保有有価証券の減損処理による投資有価証券評価損550百万円などを特別損失に計上したため、税金費用を加味した当中間期の純損失は327百万円(前年同期は236百万円の損失)となりました。

当社グループ 事業分野別の売上高

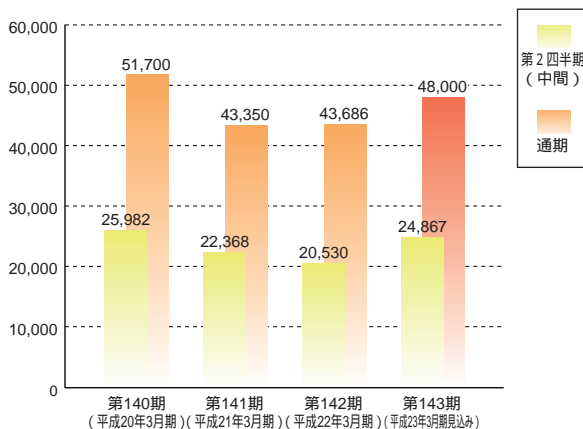
(単位:百万円)



合計 24,867百万円

当社グループ 売上高の推移

(単位:百万円)



当期の業績見通し、利益配分について

今後の世界経済は、中国、インドなどの新興国が世界経済を牽引する一方、先進国も景気対策効果や新興国への輸出、投資の増加などにより、緩やかな回復傾向にあるものの、欧州の信用不安から先進各国で株価が低迷し、雇用情勢も依然厳しく、景気回復の減速が広がるおそれがあります。一方、日本経済においては、海外景気の減速基調に加え、円高による輸出企業の収益の下振れが懸念され、また個人消費の改善を支えてきた財政政策効果の剥落が進むと見られることから、今後については予断を許さない状況と考えられます。

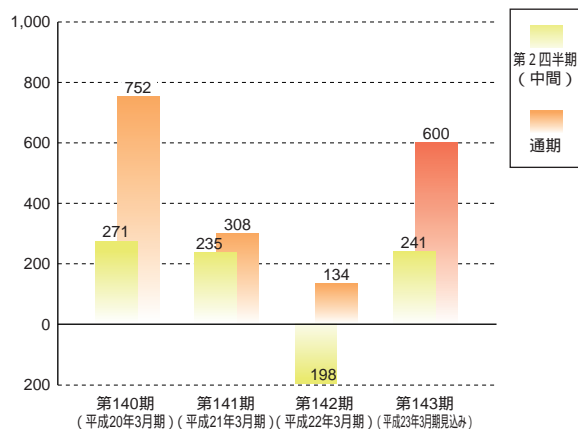
このように経済動向が地域によってまだら模様となり、先行きに不透明感が生じている中、当社グループにおきましては、当期を今後の飛躍に向けての「事業基盤の基礎固め」の年度と位置づけ、収益基盤の確立、経営の効率化、財務基盤の強化を図りつつ、各事業分野における諸課題に積極的に取り組んでおります。

当期の連結業績は、売上高48,000百万円、営業利益850百万円、経常利益600百万円を見込んでおります。

当社は、株主の皆さまへの利益還元を経営の最重要課題と位置付け、利益配分につきましては、業績、配当性向、企業価値の向上・拡大に向けた戦略的投資や健全な財務体質構築に向けた内部留保などとのバランスを総合的に勘案して決定することを基本方針としております。当期の配当につきましては、1株あたり5円を予定しておりますが、今後の経営環境の動向を踏まえて決定したいと考えております。

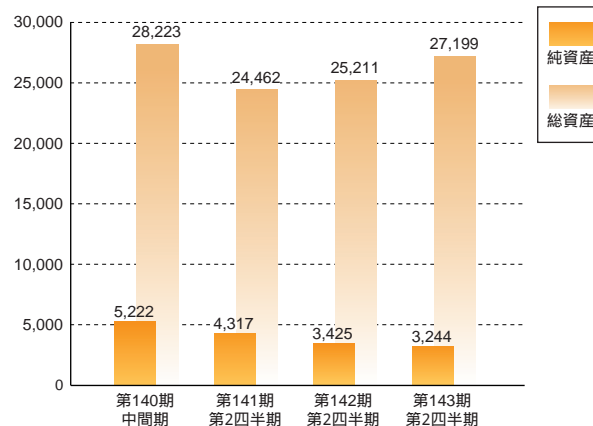
当社グループ 経常利益の推移

(単位:百万円)



当社グループ 純資産・総資産の推移

(単位:百万円)



事業分野別の概況

繊維関連



繊維業界は、昨年来続いている個人消費の冷え込みが回復せず、依然として厳しい環境の中で、天候不順の影響を受けました。また、輸入商品の8割を占める中国において、原料・人件費の上昇や人民元高によるコストアップという問題が生じました。

当社グループのアパレル分野でも、既存の量販店等

向け商品は業界の厳しい状況を受け、荷動きが鈍いことに加えて、前年度中に参入したヤングレディスアパレルの小売業ともども、猛暑による影響により秋物の売れ行きが伸びず、低調に推移しました。

レグウェア分野においても、量販店・専門店の不調に加え、夏物商品の納期遅れも発生するなど、厳しい状況が続きました。

ニット分野では、婦人向けニット生地は好調に推移し、荷動きが鈍い状況にあったスポーツ用、産業資材用ニット生地についても徐々に改善が見られるようになりました。

その結果、繊維関連の売上高は、7,292百万円、セグメント利益は0百万円となりました。



食品関連



食品業界の輸入食材を取り巻く市場環境は、中国の工場諸経費や生産工場における人件費の高騰などによるサプライサイドのコストア

ップに加え、日本国内の市場価格の下落圧力により、依然として厳しい価格競争が続いています。

当社グループでは、引き続き、「安全・安心」な商品の安定供給に努める一方、関東圏での販売体制の充実をさらに進めることで、事業の拡大を推進してきました。

冷凍食品分野では、天候不順の影響で国産野菜が不作になったことや消費者の低価格志向もあり、輸入冷凍野菜を中心に、全体的に取扱いは大きく増加しました。

水産分野では、中国の加工工場における労働力不足が生産の進捗に影響したことについては期中に解消し、猛暑の影響により取扱いが若干減少したものの、利益面では原料コスト高に歯止めがかかったこともあり、利益率は改善しました。

農産分野においては、中国からの供給が堅調であった落花生原料の取扱いが伸び、その他のナッツ類については、アーモンドに加え、主力のカシューナッツの取扱いが増加し、農産分野全体で取扱いは伸張しました。

また、農業関連事業は、期初の天候不順に加え、猛暑の影響を受け、生産面で苦戦しましたが、生鮮野菜カット加工を開始しました。

その結果、食品関連の売上高は9,715百万円、セグメント利益は750百万円となりました。



物資関連



建設業界においては、新規住宅着工やマンション契約率は改善の兆しは見えるものの、依然として低水準にあり、厳しい状況が続きました。

当社グループにおいても、建築金

物・建築資材分野は、市場環境の影響を大きく受け、取扱いが減少しました。

電気製品・生活雑貨分野では、家電量販店向け小物家電製品が、厳しい雇用情勢による個人消費の低迷、競争激化による影響を受けましたが、概ね計画通りに推移いたしました。

機械機器・金属製品分野では、景気回復を受けてロシア向け道路建設用資材製造プラントが復活したことに加え、中国向け建設機械の大型輸出案件により、輸出が大きく伸びました。

その結果、物資関連の売上高は4,975百万円、セグメント利益は76百万円となりました。



電子関連



電子関連業界では、財政政策の効果などにより、国内外にて回復基調に転じていましたが、期間後半からは日本や欧米市場にて景気先行きへの不透明感が強まり、

液晶テレビやパソコン、半導体需要において緩やかなブレーキがかかり、家電分野とともに、全般的にやや減速気味となりました。

当社グループのコンデンサ分野では、デジタル家電、調理家電や省エネ・環境用途に、受注は安定して推移し、国内・海外ともに取扱いは好調に推移しました。

センサ関連機器分野では、空気清浄器、加湿器やエアコン用途などの需要は一服したものの、施設空調用や屋外環境計測用センサの取扱いは安定し、中国市場向け各種ガスセンサの取扱いも堅調に推移しました。

電子機器の製造受託分野では、電子・電気分野での回復傾向を受け、既存顧客向けに取引が増加いたしました。採算面では厳しい状況にありました。

その結果、電子関連の売上高は2,884百万円、セグメント利益は226百万円となりました。



第 2 四半期 連結 財務 諸 表

第 2 四半期 連結 貸借 対照 表

(単位:百万円)

科 目	前第 2 四半期	当第 2 四半期	前決算期	科 目	前第 2 四半期	当第 2 四半期	前決算期
	平成21年9月30日 現在	平成22年9月30日 現在	平成22年3月31日 現在		平成21年9月30日 現在	平成22年9月30日 現在	平成22年3月31日 現在
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産				流動負債			
現金及び預金	1,588	3,236	1,617	支払手形及び買掛金	2,667	4,712	3,083
受取手形及び売掛金	6,246	6,660	6,359	短期借入金	8,809	8,426	7,973
商品及び製品	5,317	6,318	5,311	未払法人税等	53	22	31
仕掛品	130	193	128	賞与引当金	203	262	235
原材料及び貯蔵品	379	381	390	その他	2,282	2,632	2,965
その他	949	1,063	1,563	流動負債合計	14,016	16,056	14,288
貸倒引当金	49	34	47	固定負債			
流動資産合計	14,563	17,820	15,322	社債	380	490	675
固定資産				長期借入金	5,997	6,221	5,487
有形固定資産				退職給付引当金	811	677	712
建物(純額)	3,428	3,278	3,351	役員退職慰労引当金	20	16	13
その他(純額)	1,619	1,616	1,553	その他	559	494	476
有形固定資産合計	5,048	4,894	4,904	固定負債合計	7,769	7,898	7,365
無形固定資産				負債合計	21,786	23,955	21,653
のれん	519	411	465	(純資産の部)			
その他	411	211	312	株主資本			
無形固定資産合計	930	623	777	資本金	1,980	1,980	1,980
投資その他の資産				資本剰余金	1,049	1,049	1,049
投資有価証券	2,942	2,387	2,573	利益剰余金	1,246	906	1,346
その他	2,191	1,535	1,717	自己株式	398	398	398
貸倒引当金	466	68	71	株主資本合計	3,877	3,537	3,977
投資その他の資産合計	4,668	3,853	4,218	評価・換算差額等			
固定資産合計	10,646	9,371	9,901	その他有価証券評価差額金	185	13	214
繰延資産	1	7	9	繰延ヘッジ損益	37	71	45
				為替換算調整勘定	229	234	229
				評価・換算差額等合計	452	292	398
資産合計	25,211	27,199	25,233	純資産合計	3,425	3,244	3,579
				負債純資産合計	25,211	27,199	25,233

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第2四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期	当第2四半期	前決算期
	平成21年4月1日から平成21年9月30日まで	平成22年4月1日から平成22年9月30日まで	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで
売上高	20,530	24,867	43,686
売上原価	16,818	19,911	34,924
売上総利益	3,711	4,956	8,761
販売費及び一般管理費	3,863	4,581	8,497
営業利益又は営業損失()	151	375	264
営業外収益			
受取配当金	26	40	41
保険解約返戻金	68	-	68
その他の	36	36	140
営業外収益合計	130	76	250
営業外費用			
支払利息	129	144	265
その他の	48	66	114
営業外費用合計	177	211	380
経常利益又は経常損失()	198	241	134
特別利益			
固定資産売却益	-	-	37
特別利益合計	-	-	37
特別損失			
固定資産廃棄損	-	26	14
投資有価証券評価損	-	550	154
事業撤退損	-	35	28
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	22	-
特別損失合計	-	635	196
税金等調整前四半期当期純損失()	198	394	24
法人税、住民税及び事業税	42	21	43
法人税等調整額	3	88	67
法人税等合計	38	66	111
少数株主損益調整前四半期純損失()	-	327	-
四半期(当期)純損失()	236	327	136

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期	当第2四半期	前決算期
	平成21年4月1日から平成21年9月30日まで	平成22年4月1日から平成22年9月30日まで	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前四半期(当期)純損失()	198	394	24
減価償却費	303	326	603
のれん償却額	17	53	71
投資有価証券売却及び評価損益(は益)	0	550	147
貸倒引当金の増減額(は減少)	7	15	403
退職給付引当金の増減額(は減少)	75	35	174
受取利息及び受取配当金	28	41	45
支払利息	129	144	265
売上債権の増減額(は増加)	316	306	324
たな卸資産の増減額(は増加)	1,611	1,071	1,535
仕入債務の増減額(は減少)	371	1,637	54
その他	363	98	880
小計	1,428	947	2,586
利息及び配当金の受取額	28	41	45
利息の支払額	135	134	269
法人税等の支払額	65	31	75
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,256	823	2,286
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	187	193	264
有形固定資産の売却による収入	1	86	3
投資有価証券の取得による支出	220	0	264
投資有価証券の売却による収入	52	-	269
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	503	-	503
貸付金の回収による収入	0	3	14
その他	82	87	44
投資活動によるキャッシュ・フロー	774	16	700
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入れによる収入	28,687	25,953	51,703
短期借入金返済による支出	28,084	25,789	51,856
長期借入れによる収入	1,500	2,600	2,600
長期借入金返済による支出	1,508	1,577	3,198
社債の発行による収入	-	-	600
社債の償還による支出	95	145	297
配当金の支払額	113	113	113
その他	106	101	225
財務活動によるキャッシュ・フロー	280	827	787
現金及び現金同等物に係る換算差額	12	14	5
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	775	1,619	803
現金及び現金同等物の期首残高	813	1,617	813
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	1,588	3,236	1,617

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

当社グループ

セグメント情報

(単位:百万円)

当社グループの事業部門は商品・製品・サービス別に構成されており、「繊維関連」、「食品関連」、「物資関連」および「電子関連」の4つのセグメントとしております。

セグメント	事業内容	当該部署および関係会社	売上高
繊維関連	繊維製品・原糸の販売	当社繊維部 丸岡商事株式会社 神栄(上海)貿易有限公司	7,292
食品関連	冷凍食品・水産物の販売 農産物の生産・加工・販売	当社食品部・農産部 神栄アグリフーズ株式会社	9,715
物資関連	金属製品・機械機器・建築資材・建築金物・ 電気製品・生活雑貨の販売 不動産業 保険代理店業	当社産業資材部 株式会社新協和 株式会社エヌシーディ 神栄ビジネスサービス株式会社 Shinyei Corp. of America	4,975
電子関連	コンデンサ・湿度センサ・環境機器・ 電気製品・電子部品・測定機器の製造販売	神栄テクノロジー株式会社 Shinyei Kaisha Electronics(M) SDN. BHD. 当社香港支店	2,884
合 計			24,867

第 2 四半期 個別財務諸表

第 2 四半期個別貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前第 2 四半期	当第 2 四半期	前決算期	科 目	前第 2 四半期	当第 2 四半期	前決算期
	平成21年9月30日 現在	平成22年9月30日 現在	平成22年3月31日 現在		平成21年9月30日 現在	平成22年9月30日 現在	平成22年3月31日 現在
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産				流動負債			
現金及び預金	562	2,836	746	支払手形及び買掛金	1,900	3,988	2,156
受取手形及び売掛金	5,349	5,399	4,962	短期借入金	8,475	8,250	7,779
商 品	4,418	5,476	4,422	未払法人税等	9	11	14
そ の 他	1,720	1,557	2,047	賞与引当金	100	151	129
貸倒引当金	32	33	33	そ の 他	3,636	3,929	4,138
流動資産合計	12,018	15,236	12,146	流動負債合計	14,123	16,331	14,218
固定資産				固定負債			
有形固定資産				社 債	100	420	500
建 物 (純額)	2,516	2,374	2,441	長期借入金	5,637	6,106	5,285
そ の 他 (純額)	792	752	772	退職給付引当金	706	578	614
有形固定資産合計	3,309	3,127	3,214	そ の 他	486	381	407
無形固定資産	377	170	270	固定負債合計	6,930	7,485	6,807
投資その他の資産				負債合計	21,054	23,817	21,025
投資有価証券	2,929	2,373	2,559	(純資産の部)			
関係会社株式	5,115	5,502	5,502	株主資本			
そ の 他	1,030	868	986	資 本 金	1,980	1,980	1,980
貸倒引当金	66	61	65	資 本 剰 余 金	1,049	1,049	1,049
投資その他の資産合計	9,008	8,682	8,983	利 益 剰 余 金	1,252	833	1,136
固定資産合計	12,696	11,979	12,468	自 己 株 式	398	398	398
繰延資産	1	7	9	株主資本合計	3,883	3,464	3,767
				評価・換算差額等			
				その他有価証券評価差額金	184	13	213
				繰延ヘッジ損益	37	71	45
				評価・換算差額等合計	222	57	168
				純資産合計	3,661	3,406	3,598
資産合計	24,715	27,223	24,624	負債純資産合計	24,715	27,223	24,624

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第2四半期個別損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期	当第2四半期	前決算期
	平成21年4月1日から平成21年9月30日まで	平成22年4月1日から平成22年9月30日まで	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで
売上高	17,195	19,736	34,497
売上原価	14,824	17,012	29,653
売上総利益	2,370	2,723	4,843
販売費及び一般管理費	2,544	2,515	4,996
営業利益又は営業損失()	174	207	152
営業外収益	381	316	687
営業外費用	209	215	420
経常利益又は経常損失()	1	308	114
特別損失	-	552	182
税引前四半期(当期)純損失()	1	243	68
法人税、住民税及び事業税	2	5	6
法人税等調整額	11	59	34
法人税等合計	9	53	41
四半期純利益又は四半期(当期)純損失()	7	190	109

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期個別財務諸表は、四半期財務諸表等規則に基づき当社が任意で作成したものであり
法定開示におけるレビューの対象ではありません。

トピックス1

国産生鮮カット野菜事業

神栄アグリフーズ(株)

当社グループでは「国産生鮮カット野菜事業」を立ち上げ、本年2月、農産物の生産・加工を行う子会社として神栄アグリフーズ株式会社を設立いたしました。

自社農場で野菜を栽培

同社が福井県あわら市に地元農家から借り受けた畑(約9ha)では、各種野菜の栽培を精力的に行っております。

初年度となる本年は、記録的な猛暑の影響を受けて苦労もありましたが、カボチャやサツマイモを夏から初秋にかけて収穫いたしました。現在は、キャベツやブロッコリーなどが収穫期を迎えております。

工場でカット野菜に加工

福井県坂井市にあります同社の坂井工場では、野菜をそのまま調理できるサイズにカットしたうえで、出荷を行います。

ここでは、モットーである安全・安心でおいしい

カット野菜をお届けするために、独自の品質管理に取り組んでおります。この取り組みの中でも特徴的なものは、製品の殺菌工程において、食品の殺菌に一般的に使用されている次亜塩素酸ナトリウムではなく、オゾン生成水を使用していることです。

オゾン生成水は、次亜塩素酸ナトリウムに劣らない殺菌能力を持ちながら、使用後は時間の経過によって酸素に分解されて食品に残留しないため、塩素臭などの臭気がないので食材の風味を損なわず、またトリハロメタンなどの有害物質が発生しないなどの特性があります。

今後は、施設設備や要員をより充実し、さらにカット野菜の生産力を高めていく計画です。

新規事業の芽が大きく花開くよう、市場やお客さまのさまざまなニーズにお応えし、事業の拡大に努めてまいります。



カボチャ畑



キャベツ畑



カット野菜

トピックス2

SHIYU SHIYU
猛暑続きでポテ、ウイナー売上好調

神栄(株)食品部

当社食品部では、弁当・医療食・外食など向けの業務用輸入冷凍野菜・冷凍調理食品・冷凍水産物を取扱い、市場のさまざまなニーズにお応え出来るように商品の品揃えを図り、積極的な販売活動を行っております。

今回紹介するポテトとウイナーは、これまで

定番メニューとして売上げを伸ばしてきましたが、今年は史上まれに見る暑い夏となり、まさに夏の飲料に合う商材として取扱量が一気に増加しました。

これからも引き続き、お客さまからの要望にお応えする商品を開発し、提供してまいります。

商品紹介

フライドポテトは、アメリカやベルギーにおいて、旬の時期に収穫したじゃがいもをカットし油で揚げた後、急速冷凍したものです。カットの方法によって、細長いシューestring、皮がついたままのナチュラル、まっすぐ太めのストレート、波型のクリンクルがあります。

その他に、粗く潰した俵型の「コロコロハッシュドポテト」や、ベルギー産でマッシュポテトを成型した、見

た目にもかわいい「ポムデュセス」、ワッフル型もあります。

ウイナーは、中国において加工したパリッとジューシーな粗挽きポークウイナーで、プレーンタイプの他に、香辛料を混ぜたスパイシーなチョリソやバジルを混ぜたものもあります。ホテルのバイキングなどいろいろなシチュエーションで使われています。



フライドポテト
(シューestring)



フライドポテト
(ナチュラル)



コロコロハッシュド
ポテト



粗挽きポークウイナー



粗挽きポークウイナー
(バジル)

トピックス3

「2010東京国際包装展」出展

神栄テクノロジー(株)

神栄テクノロジー(株)は、「YOSHIDA SEIKI」ブランドを掲げ、輸送品質向上のため包装貨物の落下、振動、温湿度等を総合的に調査できる「日本で唯一の衝撃試験装置と輸送環境記録計機材の専門メーカー」として、包装業界に対し新製品・新技術を提案してまいりました。

平成22年10月5日から8日に開催された「2010東京国際包装展(TOKYO PACK 2010)」では、新型輸送環境記録計・改良型落下試験機の実機を出展し、前回以上に多くの来客があり、好評を得ることができました。この展示会は、昭和41年の第1回から隔年で開催され、今回で23回目の実績を持つ、出展者・来場者ともにアジア最大級の包装・パッケージ総合展(出展約500社・団体、来場者約20万人)であり、「YOSHIDA SEIKI」ブランド製品のPRを行うことができました。これからも新規顧客の獲得を進め、事業を拡大してまいります。

(注)平成19年4月に吉田精機(株)等グループ会社4社が合併して神栄テクノロジー(株)が誕生しました。



神栄テクノロジー(株)ブース

トピックス4

「インターナショナル・セールス・ミーティング (ロトロニック社)に参加

神栄テクノロジー(株)

神栄テクノロジー(株)は、工業用分野における温湿度計測機器のシェアでは世界トップのスイス・ロトロニック社の日本国内販売総代理店となっております。

ロトロニック社が平成22年9月1日から3日までスイス・ジュネーブで開催した、世界中の代理店の集まりである「インターナショナル・セールス・ミーティング」に、神栄テクノロジー(株)も参加しました。

約30カ国から70名弱が参加する中、販売計画や新製品のプレゼンテーション、ワークショップ、各国間での情報交換などが行われ、前年から最も販売を拡大した代理店として神栄テクノロジー(株)が表彰を受けました。

これからも、販売総代理店として、ロトロニック社製品の販売拡大を進めてまいります。



主要ロトロニック社製品

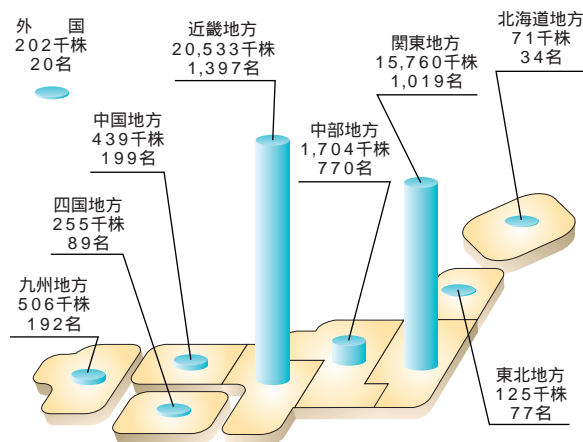
(平成22年9月30日現在)

大株主 (上位10名)

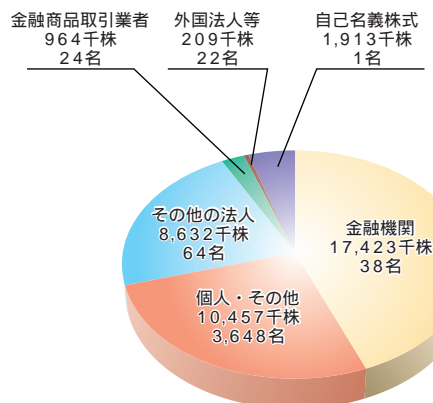
株主名	所有株式数 (発行済株式総数に対する割合)
ニッセイ同和損害保険株式会社	3,420千株 (8.64%)
株式会社三井住友銀行	1,875 (4.73)
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,875 (4.73)
株式会社みなと銀行	1,808 (4.57)
株式会社さくらケーシーエス	1,800 (4.55)
農林中央金庫	1,650 (4.17)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	1,612 (4.07)
日工株式会社	1,537 (3.88)
株式会社ノザワ	1,223 (3.09)
神栄グループ従業員持株会	1,021 (2.58)

- (注)1. 上記所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 1,612千株
2. 上記のほか当社所有の自己株式1,913千株(4.83%)があります。
3. ニッセイ同和損害保険株式会社は、平成22年10月1日付にてあいおい損害保険株式会社と合併し、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社となりました。

地域別分布状況



所有者別分布状況



株式の状況

会社概要

(平成22年9月30日現在)

資本金 19億8,000万円
 発行可能株式総数 120,000千株
 発行済株式の総数 39,600千株
 株主総数 3,797名

設立 明治20年5月24日

当社グループの従業員数 665名

当社グループの主な取扱商品・製品およびサービス

繊維関連	繊維製品、原糸
食品関連	冷凍食品、水産物、農産物
物資関連	金属製品、機械機器、建築資材、 建築金物、電気製品、生活雑貨、 不動産業、保険代理店業
電子関連	コンデンサ、湿度センサ、環境機器、 電気製品、電子部品、測定機器

事業所

本社 神戸市中央区京町77番地の1
 支店 東京支店、大阪支店、香港支店
 研究所 神栄グループR & Dセンター
 営業所 福井営業所、福岡営業所、坂井営業所
 海外事務所 北京、上海、青島、ソウル

子会社

神栄テクノロジー(株)
 神栄ビジネスサービス(株)
 丸岡商事(株)
 神栄アグリフーズ(株)
 (株)新協和
 (株)エヌシーディ
 Shinyei Corp. of America (米国)
 Shinyei Kaisha Electronics (M) SDN. BHD. (マレーシア)
 神栄(上海)貿易有限公司(中国)

役員

(平成22年9月30日現在)

代表取締役会長 新 尚 一
 代表取締役社長 森 崎 歳 章
 常務取締役 酒 井 英 明
 常務取締役 山 口 重 文
 常務取締役 小 野 耕 司
 取締役 井 上 幸 一 郎
 取締役 奥 元 茂
 取締役 赤 澤 秀 朗
 常勤監査役 小 林 宏 彬
 *監査役 福 田 正
 *監査役 山 中 弘 臣
 *監査役 稲 垣 和 成

(注)*印は、社外監査役であります。

単元未満株式の買増・買取請求について

単元未満株式を所有される方は、その単元未満株式の数と併せて1単元(1,000株)になる株式の数を、当社に対して買増の請求をすることができます。

また、単元未満株式の買取請求につきましても、お取り扱いしております。

お手続き、お問合せ等につきましては、右ページの「株主メモ」をご覧ください。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

基準日 定時株主総会 3月31日
剰余金の配当(期末配当金) 3月31日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 〒541-8502
(お問合せ先) 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
電話 0120-094-777(通話料無料)

株主様の住所・氏名のご変更、配当金受取方法のご指定、単元未満株式の買取請求・買増請求などの各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社にお問合せください。特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問合せください。また、三菱UFJ信託銀行本支店においても、お取次ぎいたします。
未受領の配当金につきましては、株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

公告方法 電子公告
当社ホームページ
(<http://www.shinyei.co.jp/>)にて掲載



豊かな社会へのパートナー 神栄グループ

神栄株式会社



この小冊子は環境にやさしい
植物性大豆油インキ
を使用しています。

自然保護のため
再生紙を使用しています。